

日本の火山活動概況（2010年3月～4月）

気 象 庁



図 1. 2010年3月～4月に目立った活動があった火山

草津白根山 (36°37'22"N, 138°31'55"E)

3月23日～24日及び4月3日～5日にかけて、湯釜火口直下を震源とする振幅の小さな火山性地震が一時的にやや増加した。地殻変動には特段の変化はみられなかったが、3月19日に東京工業大学及び草津町と共同で実施した現地調査及び4月13日に東京工業大学、東京大学地震研究所と共同で実施した上空からの観測（群馬県の協力による）では、湯釜火口内北壁や北側噴気地帯の熱活動の高まりが継続していた。

浅間山 (36°24'23"N, 138°31'23"E)

山頂火口からの噴煙量は2010年1月初め頃から大きな変化はなく、噴煙高度は火口縁上50～200mで推移した。

火山性地震は、山頂火口直下のごく浅い所で発生したと推定されるBL型地震のやや多い状態が続き、振幅の小さな火山性微動も時々発生した。2009年2月2日の噴火前にみられたBH型地震の増加は認められなかった。傾斜計では、火口直下浅部へのマグマ上昇を示す変化は

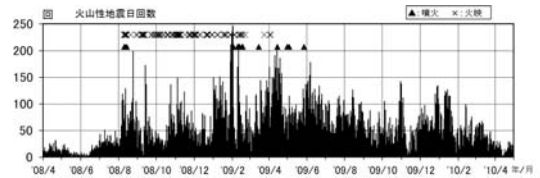


図 2. 浅間山 火山性地震の日回数（2008年4月1日～2010年4月30日）

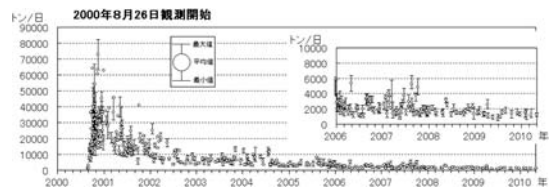


図 3. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000年8月26日～2010年4月30日）

観測されていない。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中4回実施）では、一日あたり200～800トンと2009年2月の噴火以降放出量は減少しており、2008年7月以前の状態に戻つつある。

山体周辺のGPS連続観測では、2008年7月初め頃からみられていた深部へのマグマの注入を示す伸びの傾向は、2009年7月頃から鈍化し、最近はずかには縮みの傾向がみられる。

三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

4月10日21時24分頃、振幅のやや大きなやや低周波地震が発生した。地震発生時の噴煙の状況は雲のため不明であったが、同日夜間に行った現地調査では、三宅島の北側の山麓（山頂火口から約3km）で微量の降灰を確認したことから、地震発生に伴いごく小規模な噴火が発生したと推定される。11日08時40分頃、山頂火口でごく小規模な噴火が発生し、黒灰色の噴煙が火口縁上500mまで上がり、東へ流れるのを観測した。同日午前に行った現地調査では、島の東側の山麓（山頂火口から約3km）でこの噴火に伴う微量の降灰を確認した。

噴火発生時以外の噴煙高度は火口縁上100～300mで推移した。

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法に

よる火山ガス観測（期間中2回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり900~2,000トンと、依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はなかった。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E (摺鉢山))

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過した。

国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体が隆起する地殻変動は、現在停滞している。

島内南北方向の伸びの傾向は継続していたが、最近はやや鈍化している。

福德岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

3月21日に第三管区海上保安本部が上空から行った観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水域が確認された。その後4月14日に海上自衛隊が、4月26日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測でも引き続き変色水が確認されている。

なお、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

霧島山 (新燃岳) (31°54'34"N, 131°53'11"E (新燃岳))

3月30日08時頃、ごく小規模な噴火が発生し、火口内の一部と火口外の西側斜面で降灰を確認した。07時34分頃から火山性微動が観測され、08時00分頃から10時00分頃まで白色噴煙量が増加した。

同日、気象庁機動調査班 (JMA-MOT) が九州地方整備局、宮崎県及び鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、2008年8月22日の噴火で形成された山頂火口内のS-17火孔周辺及び同火孔から西約400mの範囲に少量の降灰を確認した。新燃岳で噴火が発生したのは、2008年8月22日以来であった。

4月17日01時15分頃、ごく小規模な噴火が発生し、火口内の南から南西側にかけてわずかな降灰を確認した。

火山性地震は少ない状態で経過していたが、3月30日の噴火後、3月31日02時頃から振幅の小さなものが増

加し、4月6日頃までやや多い状態が継続した。その後、4月17日のごく小規模な噴火が発生して以降、一時的にやや増加した。火山性微動は3月31日以降発生しなかった。

桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

昭和火口では、噴火の多い状態が続いている。3月は噴火が135回（そのうち爆発的噴火は121回）、4月は噴火が105回（そのうち爆発的噴火の発生回数は100回）発生した。これらの噴火で、大きな噴石が3合目（昭和火口から1,300~1,800m）まで達した。3月16日10時07分の爆発的噴火では、火砕流が火口周辺にとどまる程度（昭和火口の南東側500mの範囲）に流下した。また、同火口では、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映が、時々観測された。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中6回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,100~2,000トンとやや多い状態で推移した。

国土地理院によるGPS連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されているが、2010年初め頃から、桜島島内においても伸びが観測されている。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、3月は約94万トン、4月は約52万トンであった。また、2010年の1月から4月までの総降灰量は約305万トンで、昨年1年間の降灰量（約235万トン）を上回っている。

薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね100m~200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。3月7日に振幅の小さな火山性微動が1回発生した。

口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

3月12日から新岳火口直下を震源とする火山性地震のやや多い状態が続いていたが、4月7日以降は少ない状態で経過した。また、火山性微動は3月上旬まではやや多い状態であったが、3月中旬以降は減少した。

噴煙等の表面現象や、GPSによる地殻変動観測では特段の変化は認められなかった。

諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

御岳火口では、噴火が断続的に発生し、そのうち爆発的噴火は3月に1回、4月に2回発生した。

諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返している。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

○人事公募

【東京大学地震研究所・准教授】

1. 公募人員：准教授 1名
2. 研究分野：ナノスケール地球科学分野限界や転位などのナノスケールでの岩石鉱物の振る舞いに基づいて、地球内部物性、特にレオロジーを実験的に解明する人材を募集する。地震研究所の観測および物質科学各分野と協力して、地球内部構造、ダイナミクス、地震発生を理解するための新しい視点を開拓していく意欲のある方が望まれる。また、このような研究活動を通じて、次世代の人材育成のための大学院教育にもかかわることが期待される。
3. 採用予定時期：決定後できるだけ早い時期
4. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）
5. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超えることとなる教員の所属する組織（分野）の職に任期を定め、その職の任期は5年以内とする。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は1回限り可（ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
6. 提出書類：
 - (1) 履歴書（市販用紙可）
 - (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。）
 - (3) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）
 - (4) 研究業績の概要（2000字程度）
 - (5) 今後の研究・教育計画（2000字程度）
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2名）の氏名と連絡先とe-mail
7. 応募締切：平成22年6月14日（月）午後4時 必着
8. 問い合わせ先：東京大学地震研究所物質科学系研究部門 中井 俊一
TEL：(03) 5841-5698 FAX：(03) 5802-3391

E-mail：snakai@eri.u-tokyo.ac.jp

9. 応募書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）宛

封書を用い、表に「ナノスケール 准教授 応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月9日送信しました）

【科学研究費補助金による非常勤研究員】

1. 職名・人員：非常勤研究員（学術研究支援研究員）・1名
2. 募集専門分野：実験岩石学
3. 職務内容：週20時間程度勤務。
ガス圧型高圧装置を用いた相平衡実験、実験生成物の機器分析（EPMA, FTIR）等
4. 応募資格：採用時に博士の学位があること
5. 任用期間：1年（最長2014年3月まで延長の可能性あり）
6. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
7. 給与等：時給制（2,000円程度。本学規定に基づき決定）。通勤手当支給。
（短時間勤務職員として採用するために社会保険関係は適用されません）
8. 勤務地：東京大学地震研究所物質科学系研究部門（東京都文京区弥生1-1-1）
9. 応募方法：応募される方は履歴書（e-mailアドレス記載）を郵送またはe-mailにて下記送付先へお送りください。書類選考後、面接いたします。
10. 応募締切：平成22年4月30日（金）必着
10. 問合せ先：藤井敏嗣（研究代表者：電話03-3359-7971；e-mail：fujii@eri.u-tokyo.ac.jp）
11. 送付先：〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所物質科学研究部門 安田 敦
電話03-5841-5750；e-mail yasuda@eri.u-tokyo.ac.jp
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月14日送信しました）

【群馬県高校地学教員】

群馬県教育委員会は、3年前より高等学校地学教員の採用試験を実施しています。今年度と昨年度は若干名ではありますが採用されています。平成23年度（平成22年度実施）も採用試験が予定されています。

群馬県は自然に恵まれ、地学教材も豊富に存在します。また、空気が澄み美しい星空が望めます。理学部や教育学部で教師を目指す学生や卒業生が、貴会員の身近におられるときは、ぜひご紹介をお願いします。

なお、願書の取り寄せ方法や受験日等の詳細は、インターネットで平成23年度採用群馬県公立学校教員募集要項もしくは東京アカデミーからアクセスできます。または、群馬県教育委員会学校人事課（〒371-8570 前橋市大手町1-1-1 電話番号（代表）：027-223-1111）に直接お問い合わせすることもできます。

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=91541

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月27日送信しました）

○受賞候補者の募集

【第31回猿橋賞募集】

- 1) 対象：推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、優れた研究業績を収めている女性科学者
- 2) 表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、1件（1名）
- 3) 応募方法：当会のホームページ <http://www.saruhashi.net/> から推薦書類をダウンロードし、A4用紙に印刷して、①推薦者（個人・団体、自薦も可）・受賞候補者の略歴・推薦対象となる研究題目 ②推薦理由（800字程度）、及び ③研究題目に関連する主な業績リスト（指定は1頁です。やむを得ない場合でも追加は1頁までです）を記入して、主な論文別刷10編程度（2部ずつ、コピーも可）を添え、5)の推薦書類送付先までお送り下さい。
- 4) 締切日：2010年11月30日
- 5) 推薦書類送付先：〒247-0022 横浜市栄区庄戸5-14-3

女性科学者に明るい未来をの会

（封筒には、「猿橋賞推薦書類」と明記して下さい。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい）

今後、募集要項に変更がある場合は、ホームページに掲載いたしますので、応募の際はホームページをご確認下さい。なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。

saruhashi2010@saruhashi.net

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月7日送信しました）

【2010年度「信州フィールド科学賞」】

1. 賞の趣旨

信州大学山岳科学総合研究所は、山岳科学研究のセンターとなることを目指して設立されました。山岳科学研究はフィールド・ワークが基本です。多くの若手研究者が「山」のフィールド・ワークに参画する契機となり、フィールド・ワークをやり遂げた達成感を味わうことが出来るようにとの願いを込め、さらには高校生・大学生の山岳地域における調査・研究を奨励することから、「信州フィールド科学賞」および「信州フィールド科学奨励賞」を創設しました。

2. 募集対象

・「信州フィールド科学賞」

山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者（2010年度末で35才以下）を対象とします。研究対象や分野は問いません。

・「信州フィールド科学奨励賞」

I種：陸域の自然・文化を対象にフィールド・ワークを行っている高校生を対象とします。

II種：「山」におけるフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学の（過去3年間に提出された）卒業論文を対象とします。

3. 受賞

・「信州フィールド科学賞」：受賞者は毎年度1名とします。信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞20万円を贈呈します。

・「信州フィールド科学奨励賞」：受賞者は毎年度I種：1件、II種：1名とします。それぞれに、信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞10万円を贈呈します。

4. 募集期間 2010年4月1日～6月30日

5. 応募方法

応募の書式は山岳科学総合研究所のWebサイト「<http://ims.shinshu-u.ac.jp/>」からダウンロードしてください。

・「信州フィールド科学賞」

自薦を基本とし、応募の際に必要なとする書類は、山岳地域におけるフィールド・ワークの実績

・今後の展開と「山岳科学」での研究の位置づけなどを2000字程度（A4用紙で2枚以内）にまとめた調査、研究業績調査（口頭発表を含む）及び論文等の別刷です。

・「信州フィールド科学奨励賞」

I種（高校生）：応募の際に必要なとする書類は、活動実績を示す調査、調査活動によって得られた成

果をまとめたもの及び所属高校長の推薦書です。

Ⅱ種(卒業論文):応募の際に必要な書類は、「山」におけるフィールド・ワークの実績と卒業論文の要旨を2000字程度(A4用紙で2枚以内)にまとめた調書、卒業論文のコピー及び指導教員による推薦書です。

6. 選考方法

応募者のなかから受賞候補者を選考委員会が選考し、山岳科学総合研究所運営委員会の議を経て、山岳科学総合研究所長が受賞者を決定します。

7. 授賞式

授賞式は2010年11月13日(土)に松本市で行い、受賞者の講演及び受賞者の研究分野に関連する内容のシンポジウムを併せて実施します。

8. 応募書類の送付先および問い合わせ先

応募書類は郵送または持参するとともに、電子ファイルとなっている調書等についてはメールへの添付書類でもお送り下さい。郵送の場合は、2010年6月30日必着をお願いします。

信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム(〒390-8621 松本市旭3-1-1, 電話:0263-37-2432)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月6日送信しました)

○講演会等

【日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)によるIODP普及講演会】

「地球深部への挑戦—海掘削におけるサイエンスとテクノロジーの最前線」の開催

日 時:2010年5月22日(土)13:30~16:30

場 所:東京海洋大学越中島キャンパス・越中島会館(東京都江東区越中島2-1-6)

対象者:海洋科学・技術を学ぶ大学生と関連分野の教員および、海洋科学に関心のある一般の方々100名(参加費無料,事前登録不要)

内容(敬称略)

- ・ 統合国際深海掘削計画(IODP)の紹介/ 末廣 潔 (IODP マネージメント・インターナショナル)
- ・ 地球深部探査船「ちきゅう」の先端技術/ 猿橋具和 (海洋研究開発機構 地球深部探査センター)
- ・ 深海掘削技術の最先端/ 宮崎英剛 (海洋研究開発機構 地球深部探査センター)
- ・ 「ちきゅう」による超深度掘削が拓く地震発生帯の姿/ 芦 寿一郎(東京大学)
- ・ 新しい事前調査法/ 笠原順三(東京海洋大学)
- ・ AUVによる海底調査/ 近藤逸人(東京海洋大学)

・ 海底下の微生物,地球では何をしている?/

山本啓之

(海洋研究開発機構 海洋・極限環境生物圏領域) 実施体制

共催:日本地球掘削科学コンソーシアム, 国立大学法人東京海洋大学, 一般社団法人IODP-MI, 独立行政法人 海洋研究開発機構, 東京地学協会

後援:文部科学省(申請中)

お問い合わせ

日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)事務局
海洋研究開発機構 地球深部探査センター内

Tel:045-778-5271 E-mail:info@j-desc.org

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月14日送信しました)

【J-DESC主催 IODP-ICDPタウンホールミーティング2010開催案内】

今年もIODP-ICDPタウンホールミーティングを開催いたします。タウンホールミーティングでは、飲み物を片手に、皆様に地球掘削科学に関する話題を自由に楽しんで頂きたいと思っております。また、IODP, ICDP, J-DESCに関する話題の講演も予定しております。参加は自由となっております。J-DESC会員機関、賛助会員機関に所属の方は、参加費は無料です。会員機関以外の方は、会場にて参加費として1000円の寄付をお願いします。

なお、学生の方につきましては、参加の際に年齢確認をさせて頂く場合がございます。大学関係者の方々は、ご同行の学生さんも、是非一緒にご参加下さい。また、地球掘削科学に現在直接関係していないが、興味はあるという方の参加も大歓迎です。皆様お誘い合わせの上、タウンホールミーティングへ是非お越し下さい。

開催概要

日 時:5月25日(火)17:45(開場)~20:15(予定)

場 所:幕張メッセ国際展示場 中央モール 6ホール 前「Central Cafeteria」

※昨年と同会場です

プログラム(予定)

17:45 開場(ドリンク類,軽食類 提供開始)

18:15-19:15 話題提供

19:15-20:15 フリーディスカッション

20:15 終了

参加費:J-DESC正会員機関,賛助会員機関に所属の方は無料,それ以外の方は1000円の寄付をお願いします。申し込み不要。

お問い合わせ:日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)事務局

海洋研究開発機構 地球深部探査センター内

Tel : 045-778-5271 E-mail : info@j-desc.org

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月13日送信しました)

【火山防災委員会】

日本地球惑星科学連合2010年大会期間中に、火山防災委員会を下記のように開催いたしますので、ご参集ください。日本火山学会 火山防災委員会(世話人: 荒牧重雄・中村洋一・藤田英輔)

日本火山学会火山防災委員会シンポジウム

「大規模噴火時の情報収集と発信—噴煙による航空機障害—」

日 時 : 平成22年5月24日(月) 17:30~20:00

場 所 : 幕張メッセ国際会議場 202号室

(〒261-0023 千葉市美浜区中瀬2-1)

プログラム(敬称略):

1. 火山噴火発災時における現地災害対策本部の運営・情報交換(仮題)

西出則武(気象庁・地震火山部長)

2. 火山の噴煙による航空機への障害(仮題)

小野寺三朗(桜美林大学)

3. 総合討論・まとめ 荒牧重雄

「火山防災委員会」は委員会といっても、委員を限定してそれ以外の人々を除外する会ではありません。日本火山学会の会員諸氏には完全にオープンな会議であります。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加してください。また、日本火山学会の会員でなくても、自由に会議に参加できますので、これらの話題に関心のある方にはお知らせください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月11日送信しました)

○その他

【海上保安庁・海底地形名称に関する検討会】

海上保安庁では、海図や海底地形図などに記載する海底地形の名称を決定する「海底地形の名称に関する検討会」を下記のとおり開催します。

日 時 : 平成22年7月16日(金)

場 所 : 海上保安庁海洋情報部会議室(東京都中央区築地5-3-1)

議 題 : 海洋調査機関などから提案された日本列島周辺の海底地形名称の検討

出席者 : 学識経験者(地理学, 海洋底地球科学の各専門家)及び日本地理学会, 関係機関(産業技術総合研究所, 水産庁, 東京大学海洋研究所, 海洋研究開発機構, 海上保安庁海洋情報部)の職員からなる10名の委員

検討会の趣旨 : 海洋調査機関などの海底調査で明らかになった海底地形に学術的な名称を付与して, 無用な混乱を防ぐことを目的としています。海底地形の名称を決定する国内唯一の検討会です。

提案に関する問い合わせ先 : 提案地名がある場合は, 以下の問い合わせ先にご連絡いただければ提案書を送付致します。提案期限は随時とし, 今回の検討会に間に合わない場合は次回検討会に提案いたします。

(問い合わせ先) 海上保安庁海洋情報部航海情報課

主任海図編集官 鈴木 晃

電話 03-3541-4201 FAX 03-3541-4388

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/topographic/topographic.htm>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月14日送信しました)

【日本学術振興会による科研費・特別研究員制度に関する説明会】

日 時 : 2010年5月25日(火) 17:15-19:15

会 場 : 幕張メッセ国際会議場 国際会議室(2階)

日本学術振興会では、地球惑星科学連合大会の期間中に、科研費制度および特別研究員制度の説明会を開催します。科研費制度をめぐる昨今の状況、基盤研究・若手研究を中心とした科研費、PD・DCを中心とした特別研究員制度の申請・採択に関する昨今の状況、学術システムセンターの役割などを説明いたします。特に、地球惑星科学をめぐる状況についても紹介します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月13日送信しました)